

## 令和5年度 研究推進計画

### (1) 研究主題

#### <研究主題>

八次を愛し、自律と貢献の志をもった児童生徒をめざして  
～「主体的・対話的で深い学び」のある未来志向の道德教育の創造～

### (2) 主題設定の理由

八次中学校区では、これまで「やつぎを愛し、自律と貢献の志をもった児童生徒の育成」を小中一貫の目標とし、生徒指導と教科指導を一体的に行うことで、児童生徒の学力向上を目指してきた。問題行動が減少し、落ち着いて学びに向かう児童生徒は増えてきたものの、学力の定着には大きな課題がある。学力定着の課題から、学習意欲を喚起しにくかったり、登校する意欲をもてなかったりする児童生徒もいる。他にも、不安定な家庭環境による生活リズムの乱れなど、家庭の教育力の差が大きい状況もあり、多様な課題が山積している実態がある。

児童の内面的な課題としては、自己肯定感が低く、自分の考えを友達に伝えることができなったり、人との関わりにおいて悩みを抱えたりしている児童がいる。これらの背景には、互いを認め合えなかったり、物事を固定的に見てしまったりすることが原因だと考える。

これらの課題を解決するために、人との違いを当たり前のもので受け入れ認め合い、安心して発言できる場を作ったり、物事を一面的に見てしまうのではなく、柔軟に多様な視点で捉えたりすることができるようにしたい。それには、安心して自分の意見を発信することができる学級づくりを行うこと、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」である特別の教科道徳が最適である。また、児童が自分の考えを発言することを考えた時に、算数科などのように正解があったり学力差が顕著に現れたりする教科は発言しにくい児童もいる。道徳の時間は、自分の考えや感じたことを素直に表現できるため、自分自身のことを話す場面として適している。道徳科での学習を他の教科の授業や学校生活、家庭生活など様々な場面で実践的に生かしていくことで、上記のような課題を解決していくことができるのではないかと考える。

令和4年度道德教育推進拠点校事業に係る児童生徒の意識調査 (%)

質問事項	八次小		八次中	
	年度初	年度末	年度初め	年度末
道徳の授業は好き	84	82	69	58
道徳の授業では考えを深め広げている	85	79	81	79
道徳の学習を生活に生かしている	81	81	69	58
自分には良いところがある	78	77	71	65
自分の良さが周りの人からみとめられている	66	66	60	54
協力して、より良い学級や学校をつくろうとしている	91	87	84	81
今住んでいる地域が好きだ	93	92	83	80
今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している	67	65	55	49

小学校においては、道徳科の授業が好きな児童は多く、特に小学校6年生では、年度当初72%から91%へ+19ポイントなど、自分の考えを表現する場面を多様に設定することで「道徳科の勉強が楽しい・好き」と感じている児童が増加しており「考え合う」道徳科が定着しつつある。しかし、「深い学び」には学年

によって差が見られる。自己肯定感についての項目では、大きな変化はなく低い傾向が続いている。

一方で、地域社会への関わりの項目については、コロナ禍にも関わらず、これまでの地域社会との繋がりの中で、児童生徒の八次地域への関心は高い。

以上の結果及び分析を踏まえ、学校教育目標達成のためには、道徳科を中心に児童の「主体的・対話的で深い学び」を促す授業づくりを追究し、安心して学べる学級づくりを行うことで、認め合いながら自己肯定感を高めていくことを目指し、本研究主題を設定する。

### (3) 研究仮説

道徳科の授業において、教材分析シートを使って授業づくりを行うことで指導者自身の教材の捉え方に深め、安心して自分の考えを伝えられる学級づくりを行うことで主体的・対話的で深い学びをつくることができるだろう。

### (4) 研究のねらい

これまで小中一貫教育の取組として、①小学校と中学校を自治活動で繋ぎ、小学生に中学校への憧れや安心感をもたせ中学生には誇りと自信をもたせること、②特別支援教育の充実を小中合同で取り組み、どの児童生徒にとっても分かりやすい授業づくりを行うこと、③英語教育で小中を繋ぎ、自分の思いや考えを臆せず伝え合うことを通して児童生徒の課題の解決に繋いできた。

令和5年度は、これまでの取組を活かし、道徳を要とした中学校区全体での取組を展開することで、児童生徒の主体性、表現力、協働性を育成する。

道徳に関する児童生徒の実態については、「道徳教育に関する現状・課題」に記したとおりであり、課題を改善するためには、「考え、議論する道徳」をどの学年においても展開することができるようにすること、互いの良さを認め合い、自己肯定感を高め合えるようにすることを目指し取組を進める。

また、これまでの地域社会との繋がりの中で、児童生徒の八次地域への関心は十分高まっている。特に、「児童生徒の道徳性を養う道徳教育プログラム」の作成にあたっては、地域・保護者を巻き込み、「自立と貢献」に繋がる思いに気付かせることを通して、道徳科では実践意欲を高め、特別活動や学校行事等で道徳的实践に繋げたい。

道徳科の指導は、よりよい生き方について児童生徒が互いに語り合うなど、あたたかな心の交流があって効果を発揮する。児童生徒一人ひとりが、自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができるよう、教師と生徒、児童生徒相互の共感的人間関係の構築を目指すことで、さらなる道徳教育の充実を図りたい。

### (5) 研究内容

小中9年間を貫く道徳教育の実践研究を行う。

- ① ・教材分析シートを活用し、主体的に考え、多角的多面的な考えを交流し合い、よりよい生き方について考えを深める道徳の授業づくり
  - ・「問い」を吟味し、学び合うための授業の展開
  - ・児童生徒が自己を認識し成長を実感する指導と評価
  - ・学年会チーム等や組織を活かした授業づくり
- ① ・地域や学校行事等とのつながりを意識したプログラムの中で展開する道徳教育
  - ・地域・保護者を巻き込み、「自立と貢献」につながる思いに気付かせることを通して、道徳科では実践意欲を高め、特別活動や学校行事等で道徳的实践に繋ぐ。
- ② ・特別支援教育の視点も含めた深い児童生徒理解、共感的人間関係構築のための理論研修及び実践

(6) 検証の視点と方法

- 道徳の時間に関するアンケートの実施（児童生徒・職員）
- 広島県児童生徒学習意識等調査の児童生徒質問紙における項目 等  
これらの結果分析等を通して、客観的・定量的に把握する。

(7) 研究計画（予定）

一学期	4月	研究主題・研究推進の提示	各月研究部会にて、取組の定期的な交流
	5月	校内研究授業①(5/11～17 事後研18日)	
	6月	校内研究授業②	
	7月	意識調査(児童・教職員)1回目	
夏季休業中	8月	第2回小中合同研修会(コミュニケーションスキル)(講師招聘) 実践の検証 ・実践の成果・課題の明確化 ・2学期の方向性の確認 ・学習環境整備 第3回小中合同研修会(個別支援の在り方等)(講師招聘)	
	9月	校内研究授業③	
二学期	10月	校内研究授業④	
	11月	校内研究授業⑤	
	12月	意識調査2回目(児童・教職員)	
	1月	三次市学力到達度検査 第6回小中合同研修会・道徳授業研究(講師招聘)(小学校) 意識調査(児童・教職員) 三次市学力到達度検査結果分析	
三学期	2月	実践の検証  ・研究のまとめ ・実践の成果・課題の分析及び、児童の実態把握	
	3月	・次年度への研究の方向性	

(8) 道徳推進リーダー教師との連携

道徳授業の参観，T2指導，T1指導，授業記録の作成

【TTに入るクラス】

1～4年 学期ごとに各クラス

5・6年 年間通してすべてのクラス

※基本的には上記の通りTTに入るが、状況によっては別のクラスに入ることもある。その都度声をかける。2学期以降は後日提案する。